

2024 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 医療心理科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---|-------------------|-----------------|--|--------|----------------------------|---------------|
| 科 目 名 | 精神保健福祉特論XIII(研究法) | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 3年 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | |
| 担 当 教 員 | 飯塚 稔 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 3年間の集大成として、特に心理や精神保健福祉に関する領域の調査研究を行い、研究論文としてまとめる。論文作成過程を通じて、調査・分析能力をはじめコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、問題解決能力、リーダーシップやフォローシップ、主体性、行動力を育成することを目的としている。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 試験70%、出席20%、平常点10%とします。その他、発表中の態度なども加味します。 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 随時、必要な資料や参考書を呈示する。 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| グループのメンバーと時間を調整し、授業時間外でも調査や討論、作業を進めていくこと。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 1年間かけて取り組むものです。1つのテーマで、じっくりと考える習慣や、実証的な説明が身につくよう願っています。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 調査データの入力、統計処理、図表化ができるようになる。 | 配布資料 等 | 授業時間外でも作業や調査をグループで協力して進める。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 調査データの入力、基礎統計、推測統計 等(9月) | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 中間発表会を通じて、調査データの分かりやすい発表と、他チームへの適切な質疑ができるようになる。 | 配布資料 等 | 授業時間外でも作業や調査をグループで協力して進める。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 中間発表会(9月最終週) | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 調査データに基づく考察、説明が不十分な箇所の再調査、必要なら追試をチームで協力して進められるようになる。 | 配布資料 等 | 授業時間外でも作業や調査をグループで協力して進める。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | データに基づく結果説明と考察の手順、追試の手配と実施、PPTの見やすいまとめ方 等 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 学科内プレ発表会を通じて、データに基づく考察の発表、他チームへの適切な質疑ができるようになる。 | 配布資料 等 | 授業時間外でも作業や調査をグループで協力して進める。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 学科内プレ発表会(10月最終週) | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 目的と意義、研究内容、考察の流れに矛盾がなく、論理的な説明ができる論文を制作できるようになる。 | 配布資料 等 | 授業時間外でも作業や調査をグループで協力して進める。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 論文の整合性、不足箇所の保管、徹底考察 等 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---|--------|----------------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 目的と意義、研究内容、考察の流れに矛盾がなく、論理的な説明ができる論文を制作できるようになる。 | 配布資料 等 | 授業時間外でも作業や調査をグループで協力して進める。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 論文の整合性、不足箇所の保管、徹底考察 等 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 目的と意義、研究内容、考察の流れに矛盾がなく、論理的な説明ができる論文を制作できるようになる。 | 配布資料 等 | 授業時間外でも作業や調査をグループで協力して進める。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 論文の整合性、不足箇所の保管、徹底考察 等 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 学科内発表を通じて、研究の目的・方法・結果・考察を、論理的整合性をもってプレゼンできるようになる。 | 配布資料 等 | 授業時間外でも作業や調査をグループで協力して進める。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 学科内発表会(11月最終週) | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 学科内発表を通じて、研究の目的・方法・結果・考察を、論理的整合性をもってプレゼンできるようになる。 | 配布資料 等 | 授業時間外でも作業や調査をグループで協力して進める。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 学科内発表会(11月最終週) | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 研究の集大成を論文として文章にまとめられるようになる。 | 配布資料 等 | 授業時間外でも作業や調査をグループで協力して進める。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 論文作成、論文添削 等(12月～1月) | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 研究の集大成を論文として文章にまとめられるようになる。 | 配布資料 等 | 授業時間外でも作業や調査をグループで協力して進める。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 論文作成、論文添削 等(12月～1月) | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | クラスメート以外の一般の方向けに研究内容を平易かつ論理的・実証的に説明できるようになる。 | 配布資料 等 | 授業時間外でも作業や調査をグループで協力して進める。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 卒業研究学外発表会(1月最終週) | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | クラスメート以外の一般の方向けに研究内容を平易かつ論理的・実証的に説明できるようになる。 | 配布資料 等 | 授業時間外でも作業や調査をグループで協力して進める。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 卒業研究学外発表会(1月最終週) | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 研究の集大成を論文として文章にまとめ、期限までに仕上げ提出できるようになる。 | 配布資料 等 | 授業時間外でも作業や調査をグループで協力して進める。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 論文最終推敲、書式確認、最終提出 等(2月上旬) | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 研究の集大成を論文として文章にまとめ、期限までに仕上げ提出できるようになる。 | 配布資料 等 | 授業時間外でも作業や調査をグループで協力して進める。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 論文最終推敲、書式確認、最終提出 等(2月上旬) | | |